

平成30年度 第2回弘前市廃棄物減量等推進審議会会議要旨

- 日 時 平成31年3月26日（火）13時30分～15時05分
- 場 所 弘前地区環境整備センター 管理棟3階会議室
- 出席者 内山委員、高野委員、安東委員、原委員、葛西委員、齋藤（安）委員、三橋委員、椛澤委員、佐藤委員、木村委員、森山委員
- 欠席者 小田桐委員、齋藤（正）委員、田澤委員
（委員14名のうち11名出席）
- 事務局 柳田都市環境部長、森岡環境管理課長、高谷環境管理課長補佐、小倉主幹兼廃棄物政策係長、田沢主幹兼環境事業係長、山内主幹兼資源循環係長、對馬廃棄物政策係主査、成田（貴）廃棄物政策係主査、成田（一）廃棄物政策係主査、成田（孝）廃棄物政策係主査

○内 容

1 開 会（進行：高谷環境管理課長補佐）

2 部長挨拶

3 会 議（進行：内山会長）

（1）【案件1】紙類の分別区分見直しについて

⇒【資料1】について事務局から制度の中止について説明を行った。

※意見・質問等なし

（2）【案件2】家庭系ごみ指定袋制度の顛末にについて

⇒【資料2】について事務局から説明を行った。

※意見・質問等なし

（3）【案件3】平成30年度廃棄物施策の実施状況について

⇒【資料3】について事務局から説明を行った。

質問・意見等

- ・電動式生ごみ処理機を置いている町会もあり、大変好評のようである。こういった取組は今後増えていくのか。

- 電動式生ごみ処理機の貸し出しを行っているので、活用して欲しい。

- ・雑誌・雑がみ類回収ステーションの回収量が減っているのは。

→民間の回収拠点が増えていきっているのが一つの理由と考えている。

(4) 【案件4】平成31年度一般廃棄物処理実施計画について

⇒【資料4】について事務局から説明を行った。

質問・意見等

・雑誌・雑がみの新しい排出方法は。

→「紙ひもなどで十字に縛るか、封筒や紙袋などに入れる」として、“など”には透明または半透明の袋も含まれるが、処理の都合上、なるべく封筒や紙袋を推奨していきたい。

(5) 【案件5】について

⇒【資料5】ごみ減量等市民運動推進事業について事務局から説明を行った。

質問・意見等

・町会連合会との協定の中身は、町内会と通じて活動していくというイメージでよいか。

→市民の8割弱が加入している町会と一緒に取り組んでいく。対話重ねながらこれまで以上に実効性のあるものとしていきたい。

・他に協定を結ぼうとしている団体は。また、数値目標などあるのか。

→農業系ごみの観点で農協さんや食品ロスの方面で弘前料理飲食業組合など想定している。

数値目標については、団体ごとに減量を数値化するのは難しいところだが、例えば、事業系であれば、オフィス町内会の加入団体をいくつ増やすといった設定は可能だと考えている。

・指定袋は他地区からの持ち込みを防止する目的もあったと思うが、現在考えている手立てはあるのか。

→監視カメラと地域住民の目によって抑止するという事を考えている。監視カメラは試験的に実施したところであり、不法投棄・不適正排出防止に効果があった。今後の運用としては、保有台数に限りもあるが、地域住民の協力を得ながら、効果的な手法で取り組んでいきたい。

・町会に資源回収のボックスを置いて拠点回収する考えはあるか。

→今のところその予定はないが、市としては、再生資源回収運動を積極的に活用してもらいたいと考えている。

・学校が回収拠点になっているところもあるが、子どもが卒業すると持って行きにくくなる。

・集積所を使って廃品回収しているが、順調にやっている。

・市の方で、回収拠点となっている学校や集会所のデータを集めて、それを上手く活用できたら良いと思う。

(6) その他

⇒次回の審議会の案件となる内容について一部説明。
異動者挨拶。

4 課長挨拶

5 閉 会 (進行：高谷環境管理課長補佐)

○資 料

- ・【資料1】紙類の分別区分見直しについて
- ・【資料2】家庭系ごみ指定袋制度の顛末について
- ・【資料3】平成30年度廃棄物施策の実施状況について
- ・【資料4】平成31年度一般廃棄物処理実施計画について
- ・【資料5】ごみ減量等市民運動推進事業について

○公開・非公開の区分 「公開」